

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2019-170594 (P2019-170594A)

【公開日】令和 1 年 10 月 10 日 (2019.10.10)

【年通号数】公開・登録公報 2019-041

【出願番号】特願 2018-61153 (P2018-61153)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 28 日 (2021.5.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
振動可能な振動手段と、
前記振動手段の振動制御が可能な振動制御手段と、
演出手段を用いた演出の実行を制御する演出制御手段と、を備え、
前記演出制御手段は、前記振動手段が振動するときに前記演出手段を振動対応態様に制
御する第 1 演出パターンと、前記振動手段が振動するときに前記演出手段を振動対応態様
に制御しない第 2 演出パターンとを含む複数の演出パターンにより演出を実行可能であり

、
前記演出制御手段は、第 1 タイミングと該第 1 タイミングよりも後の第 2 タイミングと
を含む複数のタイミングにて前記第 1 演出パターンによる演出を実行可能であり、

前記第 1 タイミングにて前記第 1 演出パターンによる演出が実行されたときよりも、前
記第 2 タイミングにて前記第 1 演出パターンによる演出が実行されたときの方が、前記有
利状態に制御される期待度が高く、

前記演出手段は、動作可能な可動体と、音声を出力可能な音声出力手段と、を含み、
前記第 1 演出パターンは、前記可動体を動作させることで振動対応態様とする所定第 1
演出パターンと、前記音声出力手段に所定の演出音よりも低い特定音声を出力させること
で振動対応態様とする特定第 1 演出パターンと、前記可動体を動作させることおよび前記
音声出力手段に前記特定音声を出力させることで振動対応態様とする特別第 1 演出パター
ンと、を含み、

前記演出制御手段は、
前記有利状態に制御するか否かによって異なる割合にていずれかの前記第 1 演出パタ
ーンによる演出を実行し、

前記第 1 タイミングにて前記特別第 1 演出パターンによる演出を実行した場合、前記
第 2 タイミングにて前記特別第 1 演出パターンによる演出を実行し、

前記複数の演出パターンとして、さらに、前記振動手段が振動する時期と少なくとも一
部が重複しない時期に前記演出手段を振動対応態様に制御する変則演出パターンを含む、
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(手段A) 本発明による遊技機は、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、振動可能な振動手段と、前記振動手段の振動制御が可能な振動制御手段と、演出手段を用いた演出の実行を制御する演出制御手段と、を備え、前記演出制御手段は、前記振動手段が振動するときに前記演出手段を振動対応態様に制御する第1演出パターンと、前記振動手段が振動するときに前記演出手段を振動対応態様に制御しない第2演出パターンとを含む複数の演出パターンにより演出を実行可能であり、前記演出制御手段は、第1タイミングと該第1タイミングよりも後の第2タイミングとを含む複数のタイミングにて前記第1演出パターンによる演出を実行可能であり、前記第1タイミングにて前記第1演出パターンによる演出が実行されたときよりも、前記第2タイミングにて前記第1演出パターンによる演出が実行されたときの方が、前記有利状態に制御される期待度が高く、前記演出手段は、動作可能な可動体と、音声を出力可能な音声出力手段と、を含み、前記第1演出パターンは、前記可動体を動作させることで振動対応態様とする所定第1演出パターンと、前記音声出力手段に所定の演出音よりも低い特定音声出力させることで振動対応態様とする特定第1演出パターンと、前記可動体を動作させることおよび前記音声出力手段に前記特定音声出力させることで振動対応態様とする特別第1演出パターンと、を含み、前記演出制御手段は、前記有利状態に制御するか否かによって異なる割合にていずれかの前記第1演出パターンによる演出を実行し、前記第1タイミングにて前記特別第1演出パターンによる演出を実行した場合、前記第2タイミングにて前記特別第1演出パターンによる演出を実行し、前記複数の演出パターンとして、さらに、前記振動手段が振動する時期と少なくとも一部が重複しない時期に前記演出手段を振動対応態様に制御する変則演出パターンを含む、ことを特徴とする。

(手段1) 他の態様の遊技機は、遊技を実行可能な遊技機であって、振動可能な振動手段(例えば、パイプレータモータ153IW13)と、振動手段の振動制御が可能な振動制御手段(例えば、演出制御用CPU120における、ステップ153IWS020で振動演出を設定し、ステップS172を実行する部分)と、演出手段(例えば、スピーカ8L, 8R、第2可動体153IW02)を用いた演出の実行を制御する演出制御手段(例えば、演出制御用CPU120における、ステップS76を実行する部分)とを備え、演出制御手段は、振動手段が振動するときに演出手段を振動対応態様に制御する第1演出パターン(例えば、Kp1~Kp3)と、振動手段が振動するときに演出手段を振動対応態様に制御しない第2演出パターン(例えば、Kp0)とを含む複数の演出パターンにより演出を実行可能であることを特徴とする。そのような構成によれば、演出効果を高めることができる。